



# 海の向こうから

皆さん こんにちは編集長のキムテツです。任国での活動いかがお過ごしですか？そしてどんな年越しを迎えられましたか？日本は、寒い寒い冬が到来しました。そして恒例のOB会会報(後期)が発行される時期でもあります。私は、寒いのが苦手な出来れば春まで冬眠したいくらいです。2009年度もたくさんの出来事がありました。OB～派遣中の隊員の方まで続々とお便りが届いていますので是非ご覧になってくださいね。

まずは、

広島県OB会会長 新年の挨拶



OB会長 大木健一  
H15年度3次隊  
エル・サルバドル  
電気機器



広島県OB会会員のみなさま、任国で活動中の隊員のみなさまそれぞれの場所で新年を迎えられたこと、お喜び申し上げます。早いもので、会報25号でご挨拶をしてから2年が経とうとしています。これまで支えていただいた役員・理事を始めとするOBのみなさまには、本当に感謝しております。あらためて2年を思い返すと、様々なことがありました。新しく行った行事は、苦労もあった分、特に記憶に残っています。キャラバン隊ひとつをとっても、私にとって6年ぶりとなる知事表敬訪問、バッテリーのあがった出発式、女性チームが準優勝した海田駅伝出場、ダンスを初披露することになった総括イベントなど思い出します。他にも、皆で楽しく貼ることができた応募促進ポスター貼り、育てる会との連携によるHOCAほかプロジェクトもありました。恒例行事でも、ブナ林を皆で散策したブロック大会、屋台当日に雨に降られて料理の処分に困ったペアせるべと、参加された皆さんそれぞれの思い出にもなっていることと思います。JICAボランティアとしての活動は僅か2年で終わりますが、我々OBは、一生OBとして人生を送っていくことを思うと、その看板を背負う重みを感じます。一方で、OB会の活動に疑問も出てきました。現在、広島県OB会には、400名あまりの会員数がありますが、イベントに参加される方は限られ、固定化していることです。顔なじみの楽しさもありますが、やはり、より多くの広島県のOBが興味をもって、参加しやすいものを目指すことも大切だと思えます。

これまでの活動といえば、協力隊PR、スキルアップセミナー、帰国報告会など、JICAボランティア事業の応援を中心にしてきました。しかし、全てのOBが国際協力に関心があるとはいえないのも事実であり、ここで、OB会とは何かという原点に返らざるをえません。

ここで提案になりますが、今後のOB会では、“もっとみんなで、もっと楽しく”という軸を設けてはどうでしょうか。

具体的には、イメージ図のようなことを夢見ています。

2010年OB会体制変更(案)

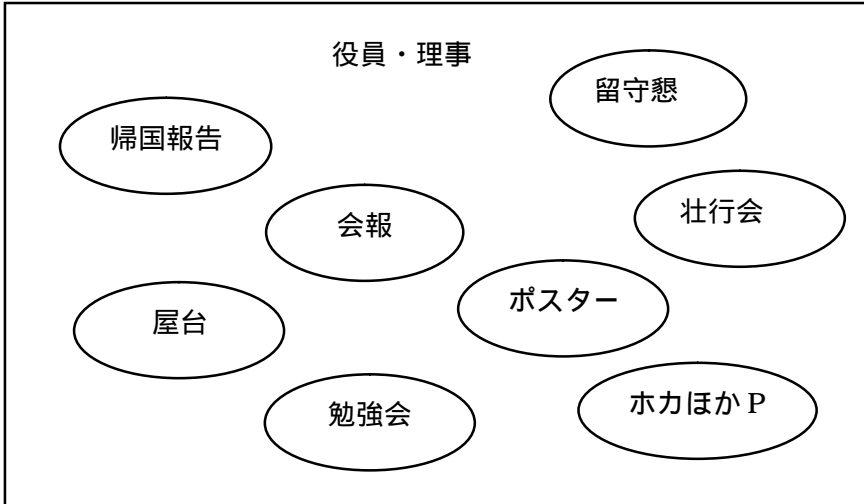
体制イメージ図

凡例:

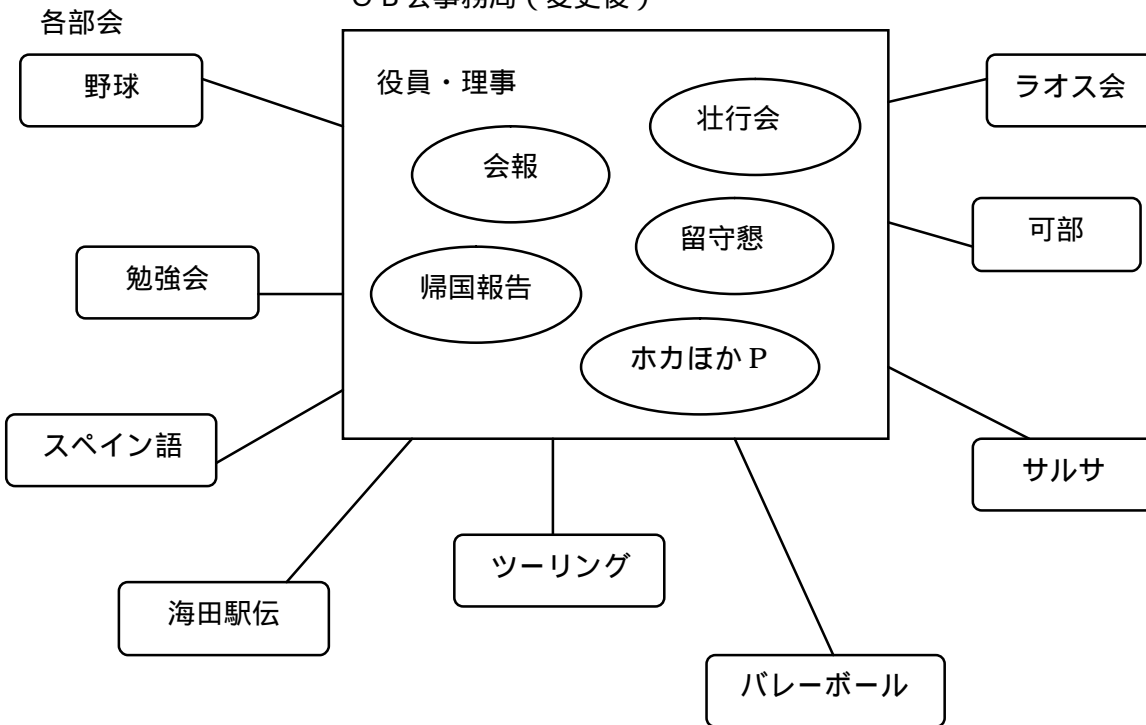
イベント名

部会名

OB会事務局(現行)



OB会事務局(変更後)



- ・限られた理事で運営し、いかにして広島県OB会を元気にしていくか。
  - ・事務局の会合は、月1回以下となるよう調整する。
  - ・年間予定を日付まで決めておく。案内は早めに流して参加しやすく。
- などが検討事項として挙げられています。

新たなOB会の取り組みに向けて、会長を始めとして会員一同で盛り上げて行きたいものですね。派遣中の隊員の方々、是非帰国されたら一緒に盛り上げていきましょうね。既に帰国しているけどなかなかOB会に参加しづらいなあとされているの方々。遅くはありませんよ。どんどん顔を覗かせてくださいね！

# 国際交流・協力の日

2009年11月15日(日)に国際会議場及び平和大通り緑地帯にて国際交流・協力の日が開催されました。当日は、たくさんの人出の中でOBたちが発表やバザーで大活躍でした。青年海外協力隊広島県OB会としては平和大通りでのメキシコ料理屋販売、国際会議場ダリア内の一角で行われた地球ひろば(JICA, JOCA, HIC, OB会による共同開催)にて青年会海外協力隊体験談の開催、ダリア内で行われた27の市民団体によるワークショップの運営に携わりました。そのうちの3人にスポットを当てました。

まずは、山城さん。を担当され、朝から夕方まで多くのお客様の対応に精を出されていました。

青年海外協力隊体験談は市民の方に協力隊活動の広報及び隊員個人レベルでの活動内容や任地の生活や文化の紹介や国際理解を深めて戴く事を目的に開催致しました。講師は2007年6月~2009年3月までカンボジアで日本語教師として活動された鍵山彩さんと2007年6月~2009年6月まで日系社会ボランティアでドミニカ共和国にて日本語学校教師として活動された坪井智美さんに講演して戴きました。たくさんの来場者も集まって戴きました。段々と講演者の話に引き込まれ相槌を打ったり、興味津々にメモを取る方や、時には笑顔が溢れ感動の共有ができたとても良い講演でした。隊員が試行錯誤や挫折を繰り返し任地の人達と真剣に向き合って共に課題を解決していく様子、協力隊の醍醐味に来場者も共感できたのではないかと思います。



レポート 山城 亮介さん  
H15年度3次隊  
ハンガリー  
野球

活動紹介コーナーは各市民団体が日頃から取り組んでいる活動内容や支援国の現状などを紹介します。ジャンルは国際協力、二国間交流や環境問題など様々です。各団体ともパネル展示や体験型・参加型のコーナーまで、多彩なブースがあり、来場者に楽しんで戴けました。各ブースにて説明に熱心に耳を傾け質問も多く、意識の高い来場者が多いと感じました。少し肌寒い天気でしたが、たくさんの来場者にお越し戴き盛会となりました。最後に準備段階からたくさんの方にアドバイスや協力を戴きまして無事に開催でき感謝致します。有難う御座いました。

続いて帰国報告会で鍵山さんと共に講演をされた坪井さんからのレポートです。



レポート 坪井 智美さん  
H19年度1次隊  
ドミニカ共和国  
日系日本語学校教師



帰国報告会を終えての感想：

私が日系社会青年ボランティアとして派遣されたこと、また、広島県が日本で最も多くの移住者を送り出した県であり、現在も多くの日系人が暮らしている県であることを踏まえ、発表では主にドミニカ共和国で暮らす日系移住者の歴史と現状について、彼らと過ごした2年間に

私が感じたことについてお話をさせていただきました。発表内容を考えているとき、「日系移住者の過酷な歴史に興味を持ってもらえるだろうか」「マイナスなイメージを与えてしまわないだろうか」と不安になりました。しかし、当日、様々なブースがある中、私の発表に足を止めて聞いてくださる方、「うんうん」とうなずきながら聞いてくださる方をみて、「ちゃんと聞いてくださっている」と実感しながら発表していました。発表を通して、薄れつつある日系移住者の歴史をもっと多くの人に知ってもらいたいと改めて感じました。

次は、屋台部門を担当した大下さんにお話を聞いて見ましょう！！屋台部門は、屋外で開催するので毎年天候次第のところがありますが今年はどうだったんでしょうね？

レポート 大下 知慶さん

H17年度2次隊  
ウガンダ 理数科教師



今年も広島県 OB 会は、世界の屋台を通して、任国料理を販売、HOCA×2 プロジェクト支援金集め、OB/OG 同士の交流のために集いました。当日の天候は快晴で、イベントは7000人を越える人々で賑わいました。比較的軽食の多い他の屋台に対し、お昼にちょうど良い中南米の料理チリコンカルネは大人気で、ピーク時には行列が絶えず、バケツリレーのようにチリコンカルネをさばっていました。協力隊合格者も2名参加してくださり、帰国後の活動や交流の場が存在することに安堵されていました。初めての参加でも楽しく活動できるのが、広島県 OB 会の良い所だと思います。私も屋台や OB 会の活動に参加し、様々な交流を通して大切なネットワークを作ることができました。様々な職業に就かれた方、様々な経歴や趣味を持たれた方、色んな出会いがあります。これからもこういった活動が未来の OB に繋がりますように。私もこれから沢山の OB の方達に出会いたいと思っています。

## 派遣中隊員支援について

今回のプレゼント系の鈴木さんにインタビュー。何だか例年のプレゼントと違いますね。どう言う意図で選ばれたんでしょうか？

鈴木 知昇さん  
H15年度3次隊  
ボツワナ  
コンピューター技術



も居られれば、もう帰国間近という方も居られると思います。我が広島県 OB 会では、派遣中の隊員の方に毎年ちょっとしたプレゼントを送らせていただいています。

去年はカレンダーや折り紙だったのですが、今年は柿ピーを送付させていただきます。日本が恋しくなった際は、ぜひこの柿ピーを食べながら故郷を偲んでください。お酒のつまみにされるもよし、現地の同僚と食べるもよし、鼻に入れて日本のエンターテイメントをアピールするのも良いかもしれません。(取れなくなった場合は同僚に取ってもらってください。)それではひきつづき活動を楽しんでください。

派遣中の隊員のみなさま 広島県 OB 会の鈴木(マスター)です。みなさま活動はどうか？生活は楽しんでおられますか？派遣されたばかりの方

## ペアセロベ

イベントが目白押しの秋です。「ペアセロベ」という国際交流フェスティバル(主催:ペアセロベ実行委員会・(財)広島平和文化センター・(財)広島国際文化財団)が 中央公園芝生広場(広島市中区基町)で平成 21 年 10 月 25 日に開催され広島県 OB 会として参加しました。このペアセロベについてご存知で無い方も多いと思うのでリーダーを務めた村田さんに紹介してもらいましょう。

今回参加した「ペアセロベ」は去年に続きの参加となりました。簡単に「ペアセロベ」の紹介をしてみようと思います。1984 年から始まり今回で 26 回目の開催となります。国際平和文化都市ひろしまで、国際協力を図ろうと始まったものです。市民の発案から生まれたこのフェスティバルは、広島に住む様々な国籍の人たちが一緒になって楽しめる場を作ろうと、市民ボランティアによる実行委員会が主体となり、(財)広島国際文化財団の協力を得て開催されています。このフェスティバルの名前の「ペアセロベ」とは、英語の“PEACE & LOVE”をスペイン語風(ローマ字読み)に発音した造語です。「平和」と「愛」の大切さを考え、生きる喜びを実感できる祭典を目指し名づけられました。

前置きが長くなりましたが、このフェスティバルには49団体(9/26時点)が参加しています。横では広島の秋の風物詩:ひろしまフードフェスティバルも同時開催されていて、たくさんの方が来られます。内容としては ステージ(楽器演奏、舞踊、歌など) ブース(世界の国や地域の文化紹介、参加者・来場者の交流) その他(チャリティーランなど)があります。広島県 OB 会としては、ブース参加で料理と任国からの雑貨の販売をしました。料理はオモツオ(西アフリカ)を作り、毎回のことながらとても旨いと評判も上々で飛ぶように売れました。雑貨は隊員 OB が任国からお土産などで持ち帰った物を販売し、値切られ破格で販売しました。買われた方は良い買い物をされたのではないのでしょうか？



このような感じで「ペアセロベ」に参加した報告をさせていただきました。年に何回かのイベント

レポート 村田 一朗さん  
H15年度1次隊  
メキシコ  
野菜



参加ですが、楽しみながらいろいろな方と交流がもてるようこれからも活動していけたらと思います。私たちがこのようにOB会として活動できているのも会を立ち上げた大先輩がいるからです。皆さんご存知でしょうか？初代OB会長の戸田さんを。現在は、居をラオスに移され現地で精力的に活動をされています。そんな戸田さんよりお便りが届きましたのでご紹介します。

## ラオスからこんにちは

初代OB会長 戸田喬大さん  
ラオス在住 バレーボール



ラオス最大の祭りタートルアン（ラオスで一番大きいお寺）祭りを紹介します。

旧暦の満月の日、今年は10月3日を最終日として行われる祭りです。この1週間前から、行われます。その2週間前からこのお寺の前の広場（平和公園ぐらいの広さ）に、屋台、遊技業、色々なお店、ステージ（広島のフラワーフェスティバルのようですが、小さいながらも5～6ステージ）などが立ち並びます。ラオスにこんなに人がいるかと思うぐらい連日の雑踏です。ステージではいろいろな催しものを行っています。中でも一番人気は、宝くじのようなくじ引きのステージです。また他のステージの中で、今年から初めてラオスの伝統の踊り、歌がありました。ラオステレビ（1局しかありませんからきっと国营と思います）は、昨年まで白黒テレビで、今年から初めてのカラー放送ですが、日本のようなドラマ、クイズなどのゲーム、歌や踊りなどの放送は一切なかったのですが、このお祭りの期間になると6日間、このステージの一幕で夜の8時から10時頃まで（放送時間が全くアバウト）この歌と踊りの生放送番組があったのです。日本の学芸会の雰囲気、幕間の時間あり、素人の歌や踊りあり、カメラはどこを写しているのかわからない時あり、照明がカメラに入って何かよくわからない時あり、音声や画像が消える時ありと、まさに学校の文化祭並みを中継してくれました。国营と思われるけれど時々コマーシャルが入り、いずれも初めての中継生放送という感じで、新鮮さがありました。

肝心タートルアン祭りですが、この期間中ラオス全土から僧侶がかなり集まって、このタートルアンの中にある回廊（一辺約85m）の中でこの期間、僧侶が寝泊りをしています。

真ん中に仏塔があり、高さ45mの黄金（黄金色のペンキ）の塔です。この周りを、人々は花や蠟燭や線香をもって右回りに3回まわります。そしてそれらを仏塔のそばに供えます。夜でしたら、丁度満月を背にしたタートルアンの塔に祈りをささげると、何ごとでもかないそうです。最終日の3日朝、早くいかないとタートルアンの中に入れないとのことで、私たちは6時30分ごろに入って待ちました。8時ごろから「大読経会」と言って高僧の声に合わせて読経します。その後タクパーツ（托鉢）をします。ものすごい数の僧侶がこのタートルアン寺院の中、外、入り口、広場に机を並べて立っているところへ行って托鉢を行います。



広島ラオス交流協会が支援しているドンデン小学校の児童

（ピエンチャン友好ハーフマラソンを走った児童と、左から3人目が戸田初代OB会長）

一人一人の僧侶のお鉢の中へカオニオ（ラオス人の主食であるもち米を蒸したご飯を朝一番に作って持って行きます）、お菓子か果物、新札5円から10円ぐらいをお皿へ入れていきます。持っているだけのものを托鉢すれば後は、他の人たちに任せて出て行きます。僧侶の数もものすごいですが、托鉢する人たちの数は数え切れません。托鉢を終えた人たちは何か充実感を覚えて帰宅していきます。この托鉢だけを見てもものすごい信仰心と感心します。勿論毎朝6時頃、各お寺から裸足で托鉢して回る僧侶にも、毎朝人々はその通路で待っていてこのように寄進していきます。その間僧侶は一切頭を下げることはありません。ラオス人の信仰心の篤さには、ただ頭が下がる思いです。

（写真と文章は関係ありません）

## 壮行会

皆さん 派遣前に広島市内で開催された壮行会に参加された方が多いんじゃないかなと思います。毎回、派遣前の元気な皆さんがOBの話に耳を傾けながら、自分の派遣を明日に控えドキドキしながらもホッとするひとときです。今回は、壮行会を企画する広島県JICA推進員を努める五十嵐さんにメッセージを頂きました。

皆さんこんにちは、壮行会幹事の五十嵐です。ときどき、派遣中隊員からメールを頂くことがあります。メールから苦労話や現地の活動を知ることが出来、元気にやっているんだなと安心します 嬉しいひとときです。広島県OB会では、毎年新隊員の出発時期に合わせて年4回6月、9月、12月、3月に壮行会を開催しています。この3月にも壮行会を開催する予定です。日程を手帳に書き込んでおいていただけると幸いです。

【21年度4次隊】3月15日（月）～19日（金）のいずれか1日  
なかなか参加が難しいという方も、ご都合がつけば、是非参加して下さいね

H16年度2次隊 ホンジュラス 水泳

五十嵐 静保さん



# おかえりなさい会&原さん 退任報告

壮行会と同時に開催されるおかえりなさい会。参加されたOBも多いのではないのでしょうか？派遣中の方々も是非帰国したら参加してみてくださいね。又、これまで3年間その調整役を務めてくださいましたブラジル大好きで名高い原さんがこの度JOCA中国支部を退任されます。いつも陽気で明るいブラジル仕込の笑顔振りまいてくださった原さんにメッセージを頂きました。3年間お疲れ様でした。そしてこれからもどんどんブラジル情報を広島県OB会に流してくださいね。

“おかえりなさい会”って何するの？

こんにちは。広島県OB会のおかえりなさい会を担当している原です。今まで参加したことがある方、ない方とそれぞれだと思いますが、おかえりなさい会は、帰国したボランティアの方たちを「無事に帰ってきてよかったね、2年間お疲れさま〜」というねぎらいの意味を込めてOBであたたかく迎えるという趣旨のものです。帰国したボランティアの方にとっては、日本に帰ってきて同じ思いを共有したり、日本で何か還元できる場所を見つけるいいきっかけになると思います。

現在は派遣回数が年に4回となったので、帰ってくるのも4回です。毎回壮行会とおかえりなさい会を別々にすると集まるのも経済的にも大変なので、3回くらいは合同で開催しています。時期は3,6,9,12月の第3週目です。新旧入り混じる合同開催は新しく出発するボランティアにとっても好評なので、しばらくOB会には顔をだしていないという方にもぜひぜひ参加していただきたい行事の一つです。場所はおなじみのタイ料理レストラン“サワディー”です。

実は私は今年度いっぱいJOCA中国支部での契約を満了し、地元岡山へ戻るため、来年度からは担当が替わる予定です。OB会のみなさんにはこの3年間一方的にブラジル情報ばかり流してすいませんでした。そのおかげで(?)いつもOB会行事になかなか出てこれない人と知り合ったり、私の趣味でおかえりなさい会等をブラジル食堂で開催し、その後お客さんになってくれたりと、この3年間で広島での人の輪を広げることができました。帰国してすぐ広島に来たころは、逆カルチャーショックと孤独な西条生活でしたが、広島県OB会のみなさんのおかげで楽しく充実した広島生活を送ることができました。この場を借りて、お礼を申し上げます。どうもありがとうございました！今後も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

追伸：リオでオリンピックが開催される頃までには、ブラジルで生活したいと思っているので、南米にお越しの際はぜひご連絡ください  
apple33norry@hotmail.com



原 規子さん  
H15年度1次隊  
ブラジル  
日系日本語教師



ホンジュラスで活動中のH20年度1次隊の佐々木瞳さんからお便りが届きました。

# 派遣中隊員よりお便り

陽気なラテンの国ホンジュラス。しかし実態は格差社会、不十分な学校教育、ゴミだらけの環境、道端でお金を要求する子ども達等開発途上国の実態を知った。国内は今年6月末に起こったクーデター以来情勢不安定が続いているが、任地であるサンタバルバラ県アラダ市の人々はゆっくり時間を過ごしている。ここはホテルも食堂もない超！田舎。貧困でも生活の中に工夫があり楽しみ方もある。家族への愛情や絆は深く、親戚やご近所さんと集まっては食事会やダンス・おしゃべりを楽しんでいる。おおらかでのんびりしている彼らを見て癒される事も多い。音楽の指導者として多文化センターで活動をして早1年5ヶ月。子ども達は皆純粋で人懐っこく、どんなに疲れていても彼らの笑顔を見ると元気が出る。学校では無伴奏の歌しか学ばないので、指導しているリズム遊びや楽器演奏・器楽アンサンブルは子ども達にとって新鮮でいつも目をキラキラさせて学んでいる。自由きままな彼らは飽きっぽい・短気・協調性がない等始めは苦戦したが、日々の練習の中で規律面等も少しずつ学び、何度か迎えた発表会を通して度胸もついてきている。音楽はもちろん、それ以外の成長過程に必要な事も学んで欲しいと願う日々である。人々の優しさ、笑顔、スキンシップ...帰国したらこれらを感じられなくなるのが今はとても寂しいが、残りの任期を今以上楽しんで活動したい。帰国までには原爆展を開催したいと考えている。

レポート：佐々木 瞳さん  
音楽 ホンジュラス



続きまして、ウガンダからH20年度1次隊の木村有希さんからお便りが届いています。

水と緑の国ウガンダよりこんにちは。私の任地はウガンダ東部、ケニア国境近くにあるカプチョルワ県です。カプチョルワは標高約2000m、アフリカで4番目に高いエルゴン山の中腹にある町で、他隊員から「ラピユタ」と評される素晴らしい景色が自慢です。赤道直下のウガンダですが、任地では朝晩はジャンパーがいるほど涼しく過ごしやすい気候です。配属先であるカプチョルワ病院は県唯一の病院で、私は県唯一の薬剤師として派遣されました。日本では経験することないマラリア、腸チフスなどの感染症がメインなので未だに勉強の毎日です。活動内容は服薬指導の向上と薬剤在庫管理能力向上をメインに行っています。同僚は准看護師なのでわかりやすい服薬指導の資料を作ったりしています。在庫管理の一番の悩みは在庫切れです。国の予算不足で十分に薬剤を調達することが難しく在庫切れを避けられないのが現状です。また、100床ほどの小さな病院なので、薬局のみならず病棟において5S活動を行ったり、病院のニュースレターを発行したりしています。当初はアフリカタイムにいらいらしてスタッフと衝突することも何回かありましたが、赴任して1年5か月が過ぎ少しずつ変化が実感できるようになりました。唯一の薬剤師ということで

日々の活動はとても忙しいですが、残りの7か月も精一杯活動頑張りたいと思います。帰ったら広島風お好み焼きをおなかいっぱい食べたいです！それでは Cemtukue (カプチョルワの現地語で See you)



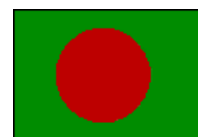
レポート:木村 有希さん  
ウガンダ 薬剤師



## OB紹介コーナー

このコーナーでは、日本で活躍中の協力隊OBの方に登場していただきます。帰国後5年以上経たれている方にスポットを当て、現在派遣中の隊員が心配している「帰国後」に迫ります。まずは、トップバッターは小野恵さんです。

1. お名前は？ 小野恵です。
2. どちらに派遣されたのですか？ バングラデシュです。
3. 隊次は？ 12年度2次隊です。
4. 職種は？ 保健師です。
5. 派遣中はどのような活動を？ 農村の女性たちに母子保健と家族計画を普及するNGOの事務所に派遣されて、そのスタッフ教育をしていました。
6. 派遣前の職業や簡単な経歴は？ 大学を卒業後、看護師、保健師、助産師の免許を取って、総合病院の産婦人科で看護師として2年間働いていました。
7. 協力隊になぜこうと思いましたか？ 以前より、海外(途上国)で生活してみたいと思っていて、一つの手段として協力隊を選びました。
8. 協力隊に行ってみての感想 教える、教えられるという関係ではなく、ともに何かをやるというのが協力隊と思いました。
9. 帰国後の職業(現在) 総合病院で看護師をしています。
10. 協力隊の経験が活かえていますか？ 外国の方が来ても、物怖じしないというのは、協力隊の経験が生きているのかもしれない。
11. 派遣中の隊員にアドバイスを！ 健康第一。現地の人たちと同じような生活をするのはいいけど、日本で生活してきた体です。無理は禁物
12. 帰国後、任国へ遊びに行きましたか？ 遊びには行っていませんが、帰国して、広島で働いた後、健康管理員としてバングラデシュに赴任しました。自分が協力隊員のとき、当時の健康管理員

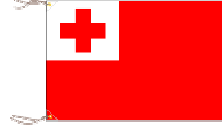


の方に、健康面だけでなく、活動内容でも話を聞いてもらったり、アドバイスをいただいたり、お世話になりました。そのお返しができたらと思って、健康管理員として、2年間、健康管理業務に携っていました。

現在、看護師としてご活躍中の小野恵さんでした。お忙しい中、ご協力いただきましてありがとうございました。元健康管理員をされていた小野さんがおっしゃるように無理は禁物ですよ！

続きまして、現在 淡路島に在住の湊かなえさんです。

1. お名前は？ 湊かなえ、ペンネームです。
2. どちらに派遣されていたのですか？ トンガ王国です。
3. 隊次は？ 8年度2次隊です。
4. 職種は何だったのですか？ 家政です。
5. 派遣中はどのような活動を？ クイーンサロテカレッジという女子校で家庭科の先生をしていました。
6. 派遣前の職業や簡単な経歴は？ 大学を卒業後、アパレルメーカーに就職しました。
7. 協力隊に何故行こうと思われましたか？ 今、このタイミングでしかできないことがあるのではないかと思ったから。
8. 協力隊へ行ってみての感想 文化が違えば、価値観も違う。正解はひとつではない。そういったことを感じました。
9. 帰国後の職業（現在） 小説家です。
10. 協力隊の経験が活きていますか？ 直接的にはわかりませんが、まったく生きていないこともないと思います。
11. 派遣中の隊員にアドバイスを！ 2年間はあつというまに過ぎていきます。時間を大切につかってください。
12. 帰国後、任国へ遊びに行きました？ 行っていませんが、ホストファミリーとメールのやりとりをしています。
13. いつ頃から、本を書かれていますか？ 5年前からです。
14. 文章は手書きですか？パソコンですか？ パソコンです。
15. いつの時間帯がスラスラ書けますか？ 時間はあまり関係ありません。気分次第です。
16. 書き詰まったときに気分転換の方法は？ 外に出ます。散歩をしたり、買い物をしたりすることが多いです。



急な原稿依頼にも丁寧に返信頂きましてありがとうございます。こちらの不手際があり作業を増やしてしまい申し訳ありませんでした。湊かなえさんは、現在作家としてご活躍中で2007年にタイトル「聖職者」で第29回小説推理新人賞を受賞されました。その後「告白」「少女」「贖罪」と本を出版されています。是非、ご覧になってみてください。キムテツは、現在「告白」を読んでいる途中です。13~16の質問は個人的な疑問を聞いてみました。

さあ、大トリは、バリバリ体育会系の松島泰樹さんです

1. お名前は？ 松島 泰樹(まつしまやすき)です。
2. どちらに派遣されていたのですか？ インドネシア共和国です。
3. 隊次は？ 平成12年度1次隊です。
4. 職種は何だったのですか？ 水球です。
5. 派遣中はどのような活動を？ 中学・高校・大学生への水球指導・普及活動。時にナショナルチームを含め、各地へ講師として出向き、指導。
6. 派遣前の職業や簡単な経歴は？ 大学生。2000年3月に卒業し、同年7月から赴任でした。
7. 協力隊に何故行こうと思われましたか？ 自分は、中学・高校・大学と10年間、水球一色と言っていい学生時代でした。その流れで、体育会のコネを頼りに就職口はいくらでもあったと思いますが、既定のルールに乗って、「あの人は体育会の縁故採用だから・・・」という視線で見られることに嫌悪感を覚え、就職活動を一切せず、それ以外の進路を模索しました。そして、若気の至り典型的パターンから、「海外に行ってみよう」と考えているときに、協力隊の募集要項に「職種：水球」の文字が・・・強烈なインスピレーションを感じ、応募、合格・・・。要するに、まだ就職したくなかったのかと。笑。





8. 協力隊へ行って初めての感想

・言語、習慣、文化、宗教・・・すべてが日本とは異なり、毎日が意外で不測の事態という3年間でした。様々な人々との出会い、経験が、私自身の視野を広げてくれ、多少のことでは動じない、多角的な視野と冷静な思考を養えたと思っています。

9. 帰国後の職業（現在）

化学品メーカー勤務（営業職）

10. 協力隊の経験が活かえていますか？

仕事だけでなく、自分のアイデンティティーの半分位を形成していると思います。

11. 派遣中の隊員にアドバイスを！

毎日が喜怒哀楽豊かに、損得勘定抜きで人と向き合える経験は、人生において中々出来るものではないと思います。少なくとも、先進国にて営利団体で生計を立てる中では難しい場合が多いです。帰国後、「あの時、ああすればよかった・・・」という思い残しが無い様に、一日一日を精一杯やり遂げて、帰国後、「協力隊に参加して、本当に良かった。」と、胸を張れるよう、頑張ってください。お体にはお気をつけて。

12. 帰国後、任国へ遊びに行きました？

協力隊終了後、現地日系法人にて2年間、首都ジャカルタで現地採用社員として勤務。現在の勤め先のインドネシア支社長と、ジャカルタ広島県人会で出会い、意気投合し、誘われるままに、現在の会社に入社して、早や3年になろうとしています。日本に帰ってきてからも、すでに3回旅行に行きました。この年末年始も1週間ほど旅行に行く予定です。なんと言いますか、あちらの食べ物や人々の大らかさが肌に合うようです・・・笑

現在、化学品メーカーで営業マンとしてご活躍中の松島さんでした。熱い思いを語っていただきありがとうございました。今年も1週間任地へ戻られるんですね。うらやましい・・・是非仲間とのひと時を堪能してきてくださいね。

さて、皆さんHOCAほかプロジェクトをご存知でしょうか？このプロジェクトの担当者の一人で派遣中の隊員とのやり取りにご尽力頂いているOBを紹介します。大変なことがうれしかったことなどいろいろ聞いてみたいと思います。



担当：梶本 伸悦さん

H3年度1次隊 パプアニューギニア 体育

<報告したいこと>

『HOCAほかプロジェクト』は青年海外協力隊広島県OB会が、派遣中の広島県出身の隊員に対し、隊員支援経費ではどうしても対象外となってしまう平和や教育などの活動に資金的な支援をする事業です。広島県協力隊を育てる会からの支援金とべあせろべや国際交流・協力の日でのエスニック料理の売り上げの一部が、このプロジェクトの資金となっています。2009年度は、5名の隊員に申請していただき、審査の結果、下記の4名が見事認められました。

【2009年度 認定者一覧】

名前	派遣国	支援金
木村光宏	ザンビア共和国	48,000円
佐藤瑞穂	ホンジュラス共和国	2,500円
讃岐佳代子	カメルーン	50,000円
富永典子	カンボジア	10,000円

<大変なこと>

私は仕事場も自宅も広島の郊外なので、海外送金が、平日に広島市内の銀行でしか対応してくれないのがちょっと大変です。こっそり仕事を抜け出すのがちょっと難しかったです（笑）

<感動したこと>

今年出張先がたまたま申請をしてくれた隊員が住む町だったので、プロジェクトの支援金を直接、手渡しで届けることができたのはとても感動しました。やはり、現役の隊員が元気に逞しく活動している姿を見られるのは、中年OBにと

って一番嬉しいことですし、ちょっぴり若返ります（ような気がします）。



<楽しいこと>

このプロジェクトは隊員の方とメールで連絡を取り合いながら進めていくのですが、その時の現地から届く隊員からのメールを読むのがとても楽しみです。特に、プロジェクトの最終報告をいただいた時のメールはとても嬉しいですし、達成感があります。

下記に紹介するのは、今年度ザンビアで「ヒロシマ原爆展」を開催された木村光宏さん（20年度3次隊理科教師）から届いたメールです。



榎本様

プロジェクトを実施し、ザンビアの人々に、日本について広島についていろいろ伝えられたと確信しています。そしてそれ以上に自分が多くのことを学ばせていただいたと思っています。プロジェクトへの支援大変ありがとうございました。

残り1年と少しですが、これからも挑戦し続ける活動をしていきたいと思えます。

日本はインフルエンザが猛威を振っていると聞きましたが、くれぐれもお体ご自愛ください。 木村光宏

ヒロシマ原爆展でリコーダー演奏を披露する配属先の生徒達

<お知らせ>

平成22年度もこのHOC Aほかプロジェクトは継続します。会報と一緒に応募要項と申請書類を同封しましたので、ご興味のある方は、申請期間内（平成22年4月1日～9月31日）にぜひ申請してください。お待ちしております。

**HOC Aほかプロジェクトとは**

青年海外協力隊広島県OB会が、現在派遣中の隊員に活動支援を行うプロジェクトです。広島県協力隊を育てる会からの支援金と、べあせるべや国際交流・協力の日でのエスニック料理の売り上げの一部を、派遣中隊員の活動経費に支援します。

是非、派遣中の隊員の方々も木村光宏さんのように任国の為に企画・活用されてみてはいかがでしょうか？私も活動中に申請しこの制度を利用させて頂きました。

今年度から始まったスキルアップセミナー。企画・運営を担当される金丸樹里さんに概要を説明してもらいました。

# スキルアップセミナー

今年度から新しい試みとして、スキルアップセミナーを始めました。スキルアップセミナーの大きなテーマとしては、OVの関わる国際理解教育のレベルアップを目的とし、協力隊OVの持つ海外での貴重な体験を様々な場で子どもたちをはじめとするみんなに有効に伝えることで、協力隊事業の社会還元を効率的に進めるところにあります。

第1回目の8月29日（土）、OVが集まり、広島市推進員の井さんから、

出前講座で使えるアクティビティや異文化体験のワークショップを実際に体験、学習しました。最近の世界の情勢やJICAの組織内容を再確認するよい機会となりました。また、出前講座で使えるネタの紹介もあり、今後の出前講座で大いに活用できそうな内容が多かったという参加者の満足度の高いセミナーになりました。第2回目は、11月の「国際協力の日」の帰国報告会に向け、帰国したばかりの19-1の鍵山さんと坪井さんのプレ発表を行いました。発表前に、発表の観点や伝え方の難しいと思うところをプレゼンテーションしてもらいました。1人40分の発表でしたが、それぞれに個性の出た興味深いものでした。参加者から質問やアドバイスが積極的に出され、充実した時間が過ごせました。また、普段、人の発表を見ることのないので、自分のやり方を振り返ったり、他の人の意見も聞いたりできていい機会になりました。国際協力の日は、たくさんの方が2人の発表に耳を傾けてくださいました。



金丸 樹里さん  
H18年度1次隊  
タイ 養護



さて12月5日(土)。第3回目は、地球ひろばの職員を迎え、任国での体験を整理するとともに、効果的な伝え方を学び、体験談を発表することで、参加者同士で体験を共有するとともに、地球生活体験学習教材の体験をするスキルアップセミナーを通して、OVは任国での体験を再度振り返ることができました。また、効果的な伝え方の手法を学ぶことで、自分の体験を参加者に発表する機会、それに対し意見をもらう機会が得られ、さらに、新たな教材を通して多角的なものの見方、考え方をすることもできました。

今後は、出前講座関連の内容だけでなく、各国の料理教室や文化交流、現職教員での集まり等、活動の内容もますます充実させていきたいと思っています。任国での体験を思い出で終わらせることなく、楽しく振り返ったり交流したりする機会をみんなで共有しませんか？

広島県には、JICA中国(東広島市)とJOCA中国事務所(広島市)があります。派遣前や帰国後にJOCA事務所を訪れる方も多いことでしょう。この度、細川OBが退任され石津OBが着任されました。共に広島県出身のOBです。近くに寄った際は、気軽に立ち寄ってくださいね。

## JOCA紹介&細川さん退任挨拶

平成18年からJOCA中国支部で募集説明会を担当してきました。気がつけばもう4年目です。この間、募集説明会やOB会支援事業を通じてたくさんの方々と交流できたことは、私の人生でかけがえのない宝物です。この仕事は、自分自身が参加し自信を持って他の人に勧められる青年海外協力隊にかかわる仕事であり、なんとも気持ちのよい仕事でした。今後は後任の石津さんが引き続き同事業を担当しますので、よろしく願います。私は、しばらく山にこもって、修行したいと思っています。ゆくゆくは山を下りてまた皆さまと一緒に活動したいと思いますので、そのときまでさようなら。Lukim yu gen ya!



細川 光宜さん  
H8年度2次隊  
パプアニューギニア  
木工

初めまして、11月16日より細川さんの後任としてJOCA中国支部に着任しました石津智久と申します。コスタリカでは小学校で栽培指導したり、地域で栽培講習会を開いたりしていました。コスタリカと言えばコーヒー！今でも任地からオーガニックコーヒーを輸入して飲んでいます。10年ぶりの広島生活ですが、今後は広島でしっかり腰を据えて活動していこうと思っていますので、それぞれの地域で活動しておられるOVの方々といろいろな形で連携して、お互いの活動を充実したものにしていけたらと思っています。山口や島根、香川にも住んでいたことがあるので募集説明会や業務以外でもOV会関連のイベントなどで訪れるのを楽しみにしています。宜しくお願い致します。



石津 智久さん  
H16年度3次隊  
コスタリカ  
野菜



~~~~~(社)青年海外協力協会(JOCA)中国支部~~~~~

<住所> 〒730-0017 広島県広島市中区鉄砲町1-20 第3ビル6階

<電話 / Fax> 082-511-3340 / 082-511-3342

<E-mail> [chugoku-br@joca.or.jp](mailto:chugoku-br@joca.or.jp)

<営業時間> 9:30~17:45

JOCA中国事務所の光景です。

左下: 込谷 晃支部長(フィジー 土木)

右下: 石倉 さやか職員(ベネズエラ 環境教育)

さて、今号も前号に引き続き 12 ページと内容盛りだくさんでしたが、締めくくりは、この度視察の旅を利用して娘さんが活動される任地へ行かれたご両親を紹介させて頂きたいと思います。偶然この情報を聞きつけまして、無理言って寄稿させて頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。任地で働くわが子を見てどのように感じ、どのようなことを胸に日本へ戻って来られたのでしょうか？その辺りを現在、ウガンダに派遣中の木村有希さんのお父様木村義将さまにお聞きしてみたいと思います。

## 視察の旅を終えて

H20年度1次隊 ウガンダ派遣

木村有希さんのお父様 木村義将さま



このたび、協力隊を育てる会が企画された「現地視察の旅」に夫婦で参加しました。他の隊員の家族共々総勢11人で現地に飛びました。

ウガンダといえば、あのアミン大統領が大虐殺をした国ぐらいしかイメージがなく不安いっぱいでしたが、行って良かったとつくづく思います。人々は穏やかで、国中が緑にあふれ、農作物は豊富。英国のチャーチルが「アフリカの真珠」と言ったのもうなずけます。サファリでライオンやゾウを見たり、ナイル川の源流も訪れたり.....。

娘は首都カンパラから車で東へ約7時間、ケニア国境に近い標高約2000メートルのカプチョルワという県の公立病院に薬剤師として派遣されています。現地とは携帯電話が通じ、本人が活動ぶりを随時ブログで「報告」しているので、様子は手に取るように分かっているつもりでしたが、やはり「百聞は一見にしかず」。近所の鶏やヤギが庭に入り込んでくるのどかな住居での朝の水くみや手での洗濯、湯あみのための湯沸かし、病院での様子を見て「なかなか頑張っているじゃないか」と胸が熱くなりました。

赴任当初、思うように活動が進まず、悩んでいる様子がメールやブログにつづられていました。そんな時「郷に入っては郷に従え」とか「つべこべ言わずに鬼になってやれ」とか、わけの分からない激励をしていました。あれから1年半。その後どうなっただろうと、恐る恐る病院の門をくぐったものです。

すると病院のスタッフが笑顔で迎えてくれるではありませんか。「よく娘を寄こしてくれた」「ユキはとてもよく働いてくれる」「ハードワーク」と言っていましたと握手攻めでした。その時、「来て良かった」と本当に思いました。と同時になぜか娘が親の手から離れたとの思いが胸に去来しました。

どこまで役に立っているのか分かりませんが、現地の人たちに「日本人はこんなんだ、日本のやり方も参考になった」と記憶にとどめておいてほしい」と勝手に期待しながら（親バカですが）、カプチョルワを後にしました。



以上

### 編集室から

前回の反省を生かすべく早めに編集作業に取り掛かるつもりが完成は、発送作業前日。にもかかわらず原稿集めは、すごく早く終了しました。依頼したOBの返信の速さにびっくりです。未だに行動力と実行力は衰えていないOBばかりだなとただただ感心感謝感激しました。どうぞご協力ありがとうございました。半年後（7月末）には、次号が発行されるはずです。それまでにどんどん任国の面白エピソード・活動紹介、活躍されているOB紹介（自薦・他薦は問いません）などお待ちしております。

投稿・ご意見・ご要望は、こちらまで

[http://jocv\\_hiroshima.at.infoseek.co.jp/](http://jocv_hiroshima.at.infoseek.co.jp/) (OB ホームページ)

[hiroshima\\_jocv\\_obkai@yahoo.co.jp](mailto:hiroshima_jocv_obkai@yahoo.co.jp) (OB 会メール) or

[lifetetsu@hotmail.com](mailto:lifetetsu@hotmail.com) (編集長直接メール)

編集室所在地：広島県東広島市

木村哲也建築デザインオフィス内

編集長 木村 哲也

H17年度3次隊

ホンジュラス共和国 建築施工

